

衛生専門課程 理容科 授業科目一覧表

※「年間授業時数」欄の数字をクリックすると該当する科目のシラバスにジャンプします。

科目区分	授業形態	授業科目	第1学年	第2学年	授業時数合計 [単位数]	
			年間授業時数	年間授業時数		
必修科目	専門教育科目	講義	関係法規・制度	15	15	30 [1]
			衛生管理	30	60	90 [3]
			保健	30	60	90 [3]
			化粧品化学	30	30	60 [2]
			文化論	30	30	60 [2]
			理容技術理論	90	60	150 [5]
	運営管理	15	15	30 [1]		
実習	理容実習	480	420	900 [30]		
選択科目	一般教養科目	講義	ビジネスマナー	30		30 [1]
			色彩学	60		60 [2]
		講義・実習	クリエイティブワーク	30		30 [1]
	専門教育科目	講義・実習	メイク技術	60		60 [2]
			ネイル技術	60		60 [2]
			エステティック技術	30	30	60 [2]
			サロンワークスキル	30	30	60 [2]
		講義	理容総合理論		60	60 [2]
		実習	理容総合技術		180	180 [6]
	必修科目授業時数計			720	690	1410 [47]
選択科目授業時数計			300	300	600 [20]	
卒業に必要な総授業時数			1020	990	2010 [67]	

2024年度 授業概要 (シラバス)

大宮理容美容専門学校

課 目 名	関係法規・制度 (一)	課目 区分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	藤森 (康)
単 位 数 (時間数)	0.5 単位 (15 時間)	履修 時期	1 年次 前期	授 業 方 法	講義	備 考	2 年次でも 15 時 間履修
学 習 目 標	<p>日本国の法制度の概要を理解するとともに、理容業に関わる衛生行政の理解を深める。そのうえで理容業に直結する「理容師法」について学習を進めていく。</p> <p>「理容師法」については特にその制定目的・人に関する規定・施設に関する規定・違反者に対する処分等について理解を深める。</p>						
使用する テキスト	<p>『関係法規・制度』（公益社団法人日本理容美容教育センター）</p> <p>『理容師・美容師法 関係法令集』（公益社団法人日本理容美容教育センター）</p>						
年 間 の 授 業 計 画	<p>年間の授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 法制度の概要（1 時間） <ul style="list-style-type: none"> 法とは何か 法の形式 衛生法規 衛生行政の概要（1 時間） <ul style="list-style-type: none"> 衛生行政 保健所 理容師法（12 時間） <ul style="list-style-type: none"> 理容師法の目的 用語の定義 理容師試験 免許と登録 理容師の義務 管理理容師 理容所の開設 開設者の衛生措置 理容所以外での業務 立入検査 行政処分 罰則 総合学習（1 時間） <ul style="list-style-type: none"> 期末考査の解説 						
試 験 の 実 施 方 法	<p>期末考査を実施。</p> <p>出題方法は穴埋め問題（語群あり）と三択問題あるいは四択問題。</p>						
成 績 評 価 方 法	<p>90%は期末考査の評点</p> <p>5%はノート提出の評点</p> <p>5%は出席状況や授業態度</p>						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	<p>本講義では「理容師法」という理容師であれば必ず知っていなければならない法律を学習していきます。</p> <p>関係法規・制度 (一) では理容業に関わる法制度を大まかに理解してもらいます。授業進度は早いですがまずは法制度の全体図を把握するように心がけましょう。そして重要な箇所についてはきちんと覚えておくこと。</p> <p>授業では教科書とノートに加え配布プリントを必ず持参しましょう。筆記具としてはマーカーペンを用意しておくことより学習がスムーズです。</p>						

2024年度 授業概要（シラバス）

大宮理容美容専門学校

課 目 名	衛生管理（一）	課 目 区 分	必修専門教 育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	森山
単 位 数 （時間数）	1単位 （30時間）	履 修 時 期	1年次 通年	授 業 方 法	講義	備 考	2年次でも60時間 履修
学 習 目 標	<p>公衆衛生の意義と本質とを理解し、理容師が公衆衛生の維持と増進とについて重大な責務を担わなければならない理由は何かを十分に理解すること。特に生活衛生上の意義と目的について、理容師の業務と関連付けながら具体的に理解すること。</p> <p>理容師の業務内容と感染症予防、環境衛生の保持との具体的な関連付けを重視し、理容における衛生措置の重要性について理解すること。</p>						
使用する テキスト	『衛生管理』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	<p>1編 公衆衛生</p> <p>1章 公衆衛生の概要（7時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生の意義と課題 ・公衆衛生発展の歴史 ・理容師と公衆衛生 ・保健所と理容業 <p>2章 保健（8時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子保健 ・成人高齢者保健 ・精神保健 <p>2編 環境衛生</p> <p>1章 環境衛生（15時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境衛生の概念 ・空気環境 ・衣服住居の衛生 ・上下水道と廃棄物 ・衛生害虫とネズミ ・環境保全 						
試 験 の 実 施 方 法	<p>前期、後期定期考査内で45分間の試験を実施する。</p> <p>考査の結果、60点未満の者は再試験を行う。</p> <p>出題方法は、穴埋め問題と三択問題あるいは四択問題。</p>						
成 績 評 価 方 法	<p>定期考査の点数をそのまま前期、後期の成績評価とする。</p> <p>但し、前期の成績にレポート点を4～5点含む場合がある。</p>						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生、環境衛生についての知識をしっかり覚え且つ身につけたために、環境衛生や保健、生活習慣病等に関するニュースには、国内外を問わず耳を傾けて情報を得、考える力を身につけ実践してほしい。 2. テスト前には、集中して勉強すること。 3. 筆記用具として、マーカーペン（黄色）を用意しておくことと学習がスムーズです。 4. 授業では教科書とノートに加え配布プリントを必ず持参しましょう。 						

2024年度 授業概要 (シラバス)

大宮理容美容専門学校

課 目 名	保健 (一)	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	古堅 (朱)
単 位 数 (時間数)	1単位 (30時間)	履 修 時 期	1年次 後期	授 業 方 法	講義	備 考	2年次でも60時間 履修
学 習 目 標	<p>理容技術の基礎となる人体について、特に皮膚及び毛髪などの皮膚付属器官の構造と機能に関する科学的、系統的な知識を習得すること。</p> <p>理容の業務を安全かつ効果的に行うためには、皮膚、毛髪などに関する正確な科学的知識が不可欠であることを理解すること。</p>						
使用する テキスト	「保健」(公益社団法人日本理容美容教育センター)						
年 間 の 授 業 計 画	<p>(1時間あたり4ページ進行)</p> <ol style="list-style-type: none"> 第1章 皮膚の構造 第2章 皮膚付属器官の構造 第3章 皮膚の循環器系と神経系 第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能 その他 4時間 <ul style="list-style-type: none"> ・小テストやテスト返却など <p>(1時間あたり6ページ進行)</p> <ol style="list-style-type: none"> 第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健 第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患 その他 2時間 <ul style="list-style-type: none"> ・小テストやテスト返却など 						
試 験 の 実 施 方 法	定期考査内で筆記試験(45分間)を実施。						
成 績 評 価 方 法	期末考査の成績						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	授業では、今後の試験対策として、記憶して欲しい部分は板書をしていきますので、ノートは必ず持参してください。また、ノートを見やすくするために、色ペンやマーカーペンがあるといいでしょう。						

2024年度 授業概要 (シラバス)

大宮理容美容専門学校

課 目 名	化粧品化学 (一)	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	木村																	
単 位 数 (時間数)	1 単位 (30 時間)	履 修 時 期	1 年次 後期	授 業 方 法	講義	備 考	2 年次でも 30 時間 履修																	
学 習 目 標	<p>化粧品は、理容技術を行う上で欠くことのできないものである反面、その使用方法を誤れば重大な健康被害を起こすおそれがあるものであることから、その化学的な性質を理解するとともに、これを正しく使用するためには正確な知識と適正な技術とを身に付けることが重要であることを認識すること。</p> <p>また理容の業務を安全かつ効果的に行うために、化粧品の正確な科学的知識と合理的な取扱方法に習熟し、あわせて、化粧品による危害を防止するための使用上の注意を学ぶこと。</p>																							
使用する テキスト	「化粧品化学」(公益社団法人日本理容美容教育センター)																							
年 間 の 授 業 計 画	<p>範囲：第1編 後期：30時間</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>編</th> <th>章</th> <th>内容</th> <th>時間数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">第1編</td> <td>第1章</td> <td>化粧品総論</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>第2章</td> <td>化粧品を使用する際に気をつけるべきこと</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>第3章</td> <td>化粧品の成り立ち</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>全て</td> <td>復習や小テストなど</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>							編	章	内容	時間数	第1編	第1章	化粧品総論	4	第2章	化粧品を使用する際に気をつけるべきこと	6	第3章	化粧品の成り立ち	15	全て	復習や小テストなど	5
編	章	内容	時間数																					
第1編	第1章	化粧品総論	4																					
	第2章	化粧品を使用する際に気をつけるべきこと	6																					
	第3章	化粧品の成り立ち	15																					
	全て	復習や小テストなど	5																					
試 験 の 実 施 方 法	<p>後期末考査を実施 出題範囲は第1編 第1章～第3章</p>																							
成 績 評 価 方 法	<p>90%は期末考査 10%は授業態度・出席状況</p>																							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	<p>授業では、今後の試験対策として、記憶して欲しい部分は板書をしていきますので、ノートは必ず持参してください。また、ノートを見やすくするために、色ペンやマーカーペンがあるといいでしょう。</p>																							

2024年度 授業概要 (シラバス)

大宮理容美容専門学校

課 目 名	文化論 (一)	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	古堅 (宗)
単 位 数 (時間数)	1単位 (30時間)	履 修 時 期	1年次 後期	授 業 方 法	講義	備 考	2年次でも30時間 履修
学 習 目 標	<p>理容業の使命の一つが、より優れた人間美の創造、実現にあることをよく認識し、この使命の達成のために必要な美的感覚を身に付け、これを洗練し、芸術的な表現力と鑑賞力を養うこと。</p> <p>理容の業務を全うするため、美の成り立ちやあり方を知り理解を深め、確かな技術力を身に付けるとともに、豊かな感性に裏打ちされた優れた表現力を養うことが必要であることを学ぶこと。</p>						
使用する テキスト	『文化論』 (公益社団法人 日本理容美容教育センター)						
年 間 の 授 業 計 画	<p>第4章 ファッション文化史 西洋編 (16時間)</p> <p>1 古代エジプト 2 古代ギリシャ・ローマ</p> <p>3 古代ゲルマン 4 中世ヨーロッパ</p> <p>5 近世(16世紀) 6 近世(17世紀)</p> <p>7 近世(18世紀) 8 近代(18世紀末～19世紀初め)</p> <p>9 近代(19世紀) 10 現代(1910年代～1920年代)</p> <p>11 現代(1930年代～1940年代)</p> <p>12 現代(1940年代後半～1950年代)</p> <p>13 現代(1960年代) 14 現代V(1970年代)</p> <p>15 現代(1980年代) 16 現代VII 1990年代～2010年代)</p> <p>第5章 礼装の種類 (5時間)</p> <p>1 和装の礼装</p> <p>2 洋装の礼装</p> <p>総論及び第2章 日本の理容業美容業の歴史 (4時間)</p> <p>総合学習 (5時間)</p>						
試 験 の 実 施 方 法	前期期末考査内で筆記試験(45分間)を実施						
成 績 評 価 方 法	期末考査の評点						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	<p>理容・美容が関わってきたさまざまな髪型、化粧、服装の変遷流行を学ぶことによりその風俗と時代背景とのつながりを読み解くことで、流行のメカニズムを知り、時代を読みデザインを起こすためのヒントにしたいものです。</p> <p>理容師・美容師を志すものとして、美の成り立ちやあり方を知ることは、技術を学ぶうえで理解を深め、新しいデザインの創造の糧になります。</p> <p>授業では教科書とノートを必ず持参しましょう。筆記用具としては蛍光ペン(黄・ピンク)を用意しておくことで学習がスムーズです。</p>						

2024年度 授業概要 (シラバス)

大宮理容美容専門学校

課 目 名	理容技術理論 (一)	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	木村																																																									
単 位 数 (時 間 数)	3単位 (90時間)	履 修 時 期	1年次 通年	授 業 方 法	講義	備 考	2年次で60時間履修																																																									
学 習 目 標	<p>理容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣とを養い、工夫と創造の能力とを身に付けること。</p> <p>理容の業務を安全かつ効果的に行うため、理容器具の正確な科学的知識と合理的思考に裏付けされた正しい取扱いの方法と理容の基礎的技術とを作業の実際に即して学び、これに習熟すること。あわせて、理容器具による危害を防止するための使用上の注意を学ぶこと。</p> <p>優れた理容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、科学的合理的な方法によって把握されなければならないことを十分に理解すること。</p>																																																															
使用する テキスト	「理容技術理論1」(公益社団法人日本理容美容教育センター) 「理容技術理論2」(公益社団法人日本理容美容教育センター)																																																															
年 間 の 授 業 計 画	<p>範囲：「理容技術理論1」「理容技術理論2」</p> <p>前期 45時間</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>章</th> <th>内容</th> <th>時間数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>序章</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>第1章</td> <td>理容技術の基礎</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>第2章</td> <td>理容用具</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>第6章</td> <td>パーマメントセット</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>第11章</td> <td>シャンプーイング&リンシング</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>第12章</td> <td>理容マッサージ</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>第7章</td> <td>ヘアカラーリング</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>復習や小テストなど</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table> <p>後期 45時間</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>章</th> <th>内容</th> <th>時間数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第3章</td> <td>ヘアデザイン</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>第4章</td> <td>ヘアカッティング</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>第8章</td> <td>シェービング</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>第9章</td> <td>理容エステティック</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>第5章</td> <td>ヘアセッティング</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>第10章</td> <td>理容クリニック</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>第13章</td> <td>ヘアトリートメント</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>第14章</td> <td>スカルプトリートメント</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>復習や小テストなど</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table> <p>実習の授業と理論の授業の内容を合わせるため、教科書の順番通りに実施しないことがある</p>							章	内容	時間数	序章		1	第1章	理容技術の基礎	4	第2章	理容用具	8	第6章	パーマメントセット	7	第11章	シャンプーイング&リンシング	6	第12章	理容マッサージ	2	第7章	ヘアカラーリング	7	その他	復習や小テストなど	10	章	内容	時間数	第3章	ヘアデザイン	2	第4章	ヘアカッティング	9	第8章	シェービング	8	第9章	理容エステティック	6	第5章	ヘアセッティング	3	第10章	理容クリニック	3	第13章	ヘアトリートメント	2	第14章	スカルプトリートメント	2	その他	復習や小テストなど	10
章	内容	時間数																																																														
序章		1																																																														
第1章	理容技術の基礎	4																																																														
第2章	理容用具	8																																																														
第6章	パーマメントセット	7																																																														
第11章	シャンプーイング&リンシング	6																																																														
第12章	理容マッサージ	2																																																														
第7章	ヘアカラーリング	7																																																														
その他	復習や小テストなど	10																																																														
章	内容	時間数																																																														
第3章	ヘアデザイン	2																																																														
第4章	ヘアカッティング	9																																																														
第8章	シェービング	8																																																														
第9章	理容エステティック	6																																																														
第5章	ヘアセッティング	3																																																														
第10章	理容クリニック	3																																																														
第13章	ヘアトリートメント	2																																																														
第14章	スカルプトリートメント	2																																																														
その他	復習や小テストなど	10																																																														
試 験 の 実 施 方 法	前期末考査及び後期末考査を実施 前期の出題範囲は、1・2・6・7・11・12章 後期の出題範囲は、1章～第14章(重点項目3・4・5・8・9・10・13・14章)																																																															
成 績 評 価 方 法	90%は期末考査 10%は授業態度・出席状況																																																															
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	授業では、今後の試験対策として、記憶して欲しい部分は板書をしていきますので、ノートは必ず持参してください。また、ノートを見やすくするために、色ペンやマーカーペンがあるといいでしょう。																																																															

2024年度 授業概要（シラバス）

大宮理容美容専門学校

課 目 名	運営管理（一）	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	古堅（宗）
単 位 数 （時間数）	0.5単位 （15時間）	履 修 時 期	1年次 前期	授 業 方 法	講義	備 考	2年次でも15時間 履修
学 習 目 標	<p>経営者の考え方や経営者が果たす責任・役割を学ぶ。経営とは何か、経営とは何を目的に、どのようなことを行っていくかといった、経営の基礎を理解する。</p> <p>人を雇うことへの責任や働くうえで求められることを学ぶ。理容・美容のサービスでは、人が大きな役割を果たす。人を雇ううえで経営者が考えていることを学ぶと共に、従業員として働いていくうえで求められていることについて理解する。</p>						
使用する テキスト	『運営管理』（公益社団法人 日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	<p>第1編 経営者の視点（6時間）</p> <p>第1章 経営とは・経営者とは</p> <p>第2章 理容業・美容業の経営について</p> <p>第3章 資金の管理</p> <p>第2編 人という資源 従業員としての視点（6時間）</p> <p>第1章 人という資源</p> <p>第2章 従業員としての視点から</p> <p>第3章 健康・安全な職場環境の実現</p> <p>総合学習（3時間）</p>						
試 験 の 実 施 方 法	前期期末考査内で筆記試験（45分間）を実施						
成 績 評 価 方 法	期末考査の評点						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	<p>運営管理で学ぶことは、その長い道のりを歩むために必要な、基本的な知識や方法です。理容・美容の技を得る皆さんは、その力を顧客のために活かすことで素晴らしい成果を実現し、それによって社会にとっても大切な存在として成長していくことが期待されていますのでしっかり学んでください。授業では教科書とノートを必ず持参しましょう。筆記用具としては蛍光ペン（黄・ピンク）を用意しておくことで学習がスムーズです。</p>						

2024年度 授業概要 (シラバス)

大宮理容美容専門学校

課目名	理容実習 (一)	課目区分	必修専門教育課目	対象学科	理容科	担当教員	木村																				
単位数 (時間数)	16単位 (480時間)	履修時期	1年次 通年	授業方法	実習	備考	2年次で 420 時間履修																				
「実務経験のある教員による授業」に該当する課目																											
理容師として理容室に勤務していた教員が、実際に理容室で行われているカット、シェービング等の技術を取り入れた授業を行う。																											
学習目標	<p>理容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けるとともに、これらの基本的操作を適宜組み合わせることで完成させる技術を習得すること。</p> <p>理容所における衛生管理の重要性を認識し、器具の消毒などの適切な実施方法を身に付けること。</p> <p>個々の客の要望に応じた理容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身に付けること。</p>																										
使用するテキスト	「理容実習1」(公益社団法人日本理容美容教育センター) 「理容実習2」(公益社団法人日本理容美容教育センター)																										
年間の授業計画	前期 250時間 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>時間数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>シャンプー&マッサージ</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>ワインディング</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>創作ウィッグ作成</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table> 後期 230時間 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>時間数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>カット</td> <td>130</td> </tr> <tr> <td>ドライヤーセット</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>実務実習</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table> <p>※学生の技術習得進度によって、都度調整を行う。</p>							内容	時間数	シャンプー&マッサージ	60	ワインディング	100	創作ウィッグ作成	60	その他	30	内容	時間数	カット	130	ドライヤーセット	60	実務実習	30	その他	30
内容	時間数																										
シャンプー&マッサージ	60																										
ワインディング	100																										
創作ウィッグ作成	60																										
その他	30																										
内容	時間数																										
カット	130																										
ドライヤーセット	60																										
実務実習	30																										
その他	30																										
試験の実施方法	衛生・実技試験を年間で2回程度行う。不合格の場合は再試験を行う。																										
成績評価方法	90%は衛生・実技試験の評点 10%は授業態度・出席状況																										
学生へのメッセージ	忘れ物があると実習そのものがないことがあります。持ち物の準備は怠らないように注意をしてください。最初は失敗することが当たり前と思って、積極的に挑戦してください。																										

2024年度 授業概要 (シラバス)

大宮理容美容専門学校

課 目 名	ビジネスマナー	課 目 区 分	選択一般 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	阿見
単 位 数 (時間数)	1 単元 (30 時間)	履 修 時 期	1 年次 前期	授 業 方 法	講義	備 考	
学 習 目 標	<p>社会人としての基本的なルールやマナー、また、一般常識について学び理解する。 正しい動作や言葉づかい、接客や電話対応の基礎について学び、それらを身につけること によって、社会に出てどのような職種に就いたとしても対応できるようになる。</p>						
使用する テキスト	『ビジネスマナー』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	<p>第1章 社会人としての基本（4時間） 1 職場でのモラル 2 職場での身だしなみ 3 職場での人間関係</p> <p>第2章 正しい動作（5時間） 1 あいさつ 2 基本動作 3 実践トレーニング</p> <p>第3章 言葉づかい（5時間） 1 話し方、聞き方 2 敬語 3 人の呼び方 4 実践トレーニング</p> <p>第4章 接客の基礎（5時間） 1 接遇 2 接客対応 3 実践トレーニング</p> <p>第5章 電話対応の基礎（5時間） 1 電話の受け方 2 電話のかけ方 3 実践トレーニング</p> <p>第6章 一般常識（4時間） 1 名刺交換、紹介、訪問、座席の順序 2 冠婚葬祭</p> <p>総合学習（2時間）</p>						
試 験 の 実 施 方 法	授業内で試験を実施						
成 績 評 価 方 法	<p>試験の点数が60%</p> <p>授業態度、出席日数が20%</p> <p>小テストが20%</p> <p>評価基準に満たない場合は課題を与え評価とする</p>						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	<p>ビジネスマナーは、あらゆる職業において基礎となるものです。マナーができていなければ 人として信用されませんのでしっかり学んで実践してください。</p> <p>社会は様々な年齢層の人たちとのかかわりで成り立っていますので、正しいマナーを理解し て自分のものとするといでしょう。</p>						

2024年度 授業概要（シラバス）

大宮理容美容専門学校

課目名	色彩学	課目区分	選択一般教育課目	対象学科	理容科	担当教員	柴
単位数 (時間数)	2単位 (60時間)	履修時期	1年次 後期	授業方法	講義	備考	
学習目標	<p>理容の技術の一つであるカラーリングを施術するに当たり、色彩に関する知識を習得しておくことは、理容師として重要なことである。</p> <p>「人と色」に着目して、一人ひとりの持っている肌、瞳、髪、頬、唇などの色に合わせ、似合う色を見つけられる知識を持ち、その人の魅力を最大限に引き出して、輝いて見える方法を提案できるようになるべく、パーソナルカラー検定3級の取得を目指す。</p>						
使用するテキスト	『パーソナルカラー検定3級公式テキスト』（一般社団法人日本カラーリスト協会）・カラーカード157						
年間の授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 導入（6時間） <ul style="list-style-type: none"> 好きな色 ・色のしくみ ・色の分類 ・セルフチェック 色彩と文化（6時間） <ul style="list-style-type: none"> 四季の色 ・色の歴史 ・色と生活 ・色の種類 色彩理論（18時間） <ul style="list-style-type: none"> 色のしくみ ・C U S表色系 ・三属性と対比 ・感情効果 ・C U S配色効果 色彩とファッション（3時間） <ul style="list-style-type: none"> ファッション概論 ・ブライダルと色彩 パーソナルカラー（12時間） <ul style="list-style-type: none"> パーソナルカラー ・パーソナルカラーの特徴 総合学習（9時間） <ul style="list-style-type: none"> 模擬問題 ・試験 演習授業（6時間） <ul style="list-style-type: none"> シーズンカラーでのコラージュ作成・診断 						
試験の実施方法	<p>授業時間内に複数回の試験を実施。カラー検定3級の内容について単元ごとに試験を行い、最終的に100点満点で採点を行う。</p> <p>試験の結果が60点未満の学生には特別課題を与え、課題をクリアした者は60点として扱う。</p>						
成績評価方法	<p>試験の成績を80%とし、授業への取り組み状況（出席状況を含む）10%、課題10%と併せて評価する。</p>						
学生へのメッセージ	<p>日常の中に当然のこととして存在する「色」ですが、そのメカニズムはとても奥深いものです。私たちがどのように色を認識しているのかを理解し、そのなかでシーズンカラーに合わせた配色を身につけることで、理容師としての技能を高めることができます。</p> <p>パーソナルカラー検定3級に沿った内容で授業を行いますので、あわせて資格取得を目指しましょう。</p>						

2024年度 授業概要 (シラバス)

大宮理容美容専門学校

課 目 名	クリエイティブ ワーク	課 目 区 分	選択一般 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	大 草
単 位 数 (時間数)	30時間	履 修 時 期	1年次 前期	授 業 方 法	講義・ 実習	備 考	1年次のみ履修
学 習 目 標	ビューティクリエイターにとって”モノの本質を極める目を養う”事はとても重要です。人体頭部の骨格・筋肉・シワなどの理解に即した表現が出来、またバランスの取れた表現技法を習得する事が重要です。当初は顔のパーツがしっかりと表現できる様に指導をし、後半部分には学内文化祭に向けてのヘアデザイン画の集大成として取り組んでいきます。						
使用する テキスト	自前参考テキスト						
年 間 の 授 業 計 画	<p>基礎講義：鉛筆の削り方、持ち方、筆圧の調整、点・線・面の理解、光と影（陰）の理解、デッサンとは</p> <p>基礎演習：鉛筆によるグラデーション制作</p> <p>表現演習 -1：人体頭部の理解及び表現（顔のパーツの特徴及び表現方法）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：目の描き方及び目の周辺の捉え方 2：鼻の描き方及び目の周辺の捉え方 3：口唇の描き方及び目の周辺の捉え方 4：耳殻の描き方及び目の周辺の捉え方 5：髪の描き方及び各ヘアスタイル画の挑戦 <p>表現演習 -2：ヘアデザイン画への作品作り</p>						
試 験 の 実 施 方 法	試験は実施しませんが、各課題提出物や授業態度などで評価を行う。						
成 績 評 価 方 法	90%は各課題提出物の評価 10%は授業態度や授業に対する意欲、出席状況						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	初めて本格的な絵を描くという学生がいると思いますが、鉛筆の削り方、持ち方から始め人体頭部構造の理解と共に表現技術を習得する事です。感性と共に”観性”を磨く事が自分のスキルアップにつながっていきます。 疑問に思う事や分からない事があれば是非、積極的に申し出て下さい。良きアドバイスが出来ると思います。						

2024年度 授業概要 (シラバス)

大宮理容美容専門学校

課 目 名	メイク技術	課 目 区 分	選択専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	古堅 (朱)
単 位 数 (時間数)	2単位 (60時間)	履 修 時 期	1年次 前期	授 業 方 法	講義・ 実習	備 考	
学 習 目 標	<p>メイクアップは生身の「人間」に対して行う、装飾的な表現であることを理解する。 皮膚や骨格、筋肉などの印象に大きな影響を与え、色とトーン、質感のイメージについても知っておく必要がある。</p> <p>色彩心理学による人間の感情変化について知ること、メイクアップ効果は大きく違いをすること、さらには、人の性格を外面でとらえる見方を学び、目的に合った顔づくりや見せたい印象を理論と実技で基礎を学び身に付けること。</p>						
使用する テキスト	日本メイクアップ技術検定試験 公式テキスト 3級2級 (社団法人 JMA)						
年 間 の 授 業 計 画	<p>後期 (60時間)</p> <p>メイクアップ3級検定 (33時間)</p> <p>1 メイクアップを学ぶにあたって</p> <p>2 3級テーブルセッティング</p> <p>3 スキンケア</p> <p>4 ベースメイクアップ</p> <p>メイクアップ3級検定の一連の流れ (30分間)</p> <p>メイクアップ2級検定 (27時間)</p> <p>5 2級検定テーブルセッティング</p> <p>6 スキンケア</p> <p>7 ベースメイクアップ</p> <p>8 アイメイクアップ</p> <p>9 リップメイクアップ</p> <p>10 メイクアップ2級検定の一連の流れ (50分間)</p>						
試 験 の 実 施 方 法	<p>メイクアップ3級検定 (30分間) 技術チェック</p> <p>メイクアップ2級検定 (50分間) 技術チェック</p> <p>合格ラインまで達しない場合は何度か技術チェックを行い、平均レベルまで上げる</p>						
成 績 評 価 方 法	<p>80%は衛生・実技内容</p> <p>20%は授業態度、取り組み方、出席状況</p>						
学 生 へ の メ ャ ー ジ	<p>忘れ物が無いか事前に確認し、時間に余裕をもって行動をしましょう</p> <p>テキストを読んで知識を増やす、確認をして繰り返し練習しましょう。</p> <p>メイクアップの上達の秘訣はそれしかありません。</p> <p>基礎をマスターして、沢山の肌に触れ美しさを引き出して、表情までも輝かせましょう。</p>						

2024年度 授業概要 (シラバス)

大宮理容美容専門学校

課 目 名	ネイル技術	課 目 区 分	選択一般 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	黒羽																				
単 位 数 (時間数)	2単位 (60時間)	履 修 時 期	1年次 前期	授 業 方 法	講義・ 実習	備 考	1年次のみ履修																				
学 習 目 標	ネイルケアを学び、技術面だけではなく、ネイルに関する正しい知識を理解すること。 JNEC日本ネイリスト協会3級に合格するために、安全で適切な知識、技術を習得すること。																										
使用する テキスト	「JNAテクニカルシステムベーシック」(NPO法人日本ネイリスト協会)																										
年 間 の 授 業 計 画	<p>学科 12時間</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>時間数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎理論</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>ネイルケア</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>その他 (小テストや模擬試験)</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> <p>実技 48時間</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>時間数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>カラーリング</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>ファイリング</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>クリーンナップ</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>アート</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>その他 (通し練習や模擬試験)</td> <td>42</td> </tr> </tbody> </table>							内容	時間数	基礎理論	3	ネイルケア	1	その他 (小テストや模擬試験)	8	内容	時間数	カラーリング	2	ファイリング	1	クリーンナップ	2	アート	1	その他 (通し練習や模擬試験)	42
内容	時間数																										
基礎理論	3																										
ネイルケア	1																										
その他 (小テストや模擬試験)	8																										
内容	時間数																										
カラーリング	2																										
ファイリング	1																										
クリーンナップ	2																										
アート	1																										
その他 (通し練習や模擬試験)	42																										
試 験 の 実 施 方 法	検定前に授業時間内に模擬試験 (実技・筆記) を実施 内容はJNEC日本ネイリスト協会検定3級内容と同等のもの																										
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験 60% ・筆記試験 30% ・授業態度・出席状況 10% 																										
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	<p>本講義では、ネイリスト技能検定3級を取得することを目標にしています。</p> <p>学科では、記憶して欲しい部分は板書をし、解説を行いますので、それに合わせてテキストに色ペンやマーカーペンで印をつけてください。</p> <p>実技では、説明をよく聞き、繰り返しトレーニングを行ってください。</p>																										

2024年度 授業概要（シラバス）

大宮理容美容専門学校

課 目 名	エステティック 技術（一）	課 目 区 分	選択専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	古堅（宗）
単 位 数 （時間数）	1単位 （30時間）	履 修 時 期	1年次 後期	授 業 方 法	講義	備 考	2年次でも30時間 履修
学 習 目 標	<p>エステティック技術の目的が心身の健康と美の実現にあることを理解し、科学的事実と合理的思考に裏付けられたエステティック技術の重要性を認識すること。</p> <p>エステティック技術の歴史、理論、現状のほか、各種のエステティック技術の目的、種類、特徴、技術上の注意などについて学ぶこと。特に、エステティック技術の効果と安全性に関する科学的基礎について十分に認識すること。</p> <p>フェイシャルエステティックについて、その理論と実際の技術を学ぶこと。</p>						
使用する テキスト	認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディーエステティシャン『理論と技術』 （一般社団法人 日本エステティック協会）						
年 間 の 授 業 計 画	<p>年間の授業計画（後期 30時間）</p> <p>Chapter 1 エステティックとは</p> <p>Chapter 2 ホメオスタシスとストレス</p> <p>Chapter 3 身体のしくみと働きⅠ</p> <p>Chapter 5 皮膚のしくみと働きⅠ</p> <p>Chapter 6 皮膚の仕組みと働きⅡ</p> <p>Chapter 7 エステティックカウンセリングとは</p> <p>総まとめ</p>						
試 験 の 実 施 方 法	Chapter ごとに小テストを実地。Chapter 1からChapter 7までの総まとめテストを実施 小テストの正答について、本を使用し各自で調べさせたものを提出させフィードバックする。 期末試験は行ないません。						
成 績 評 価 方 法	座学（小テスト状況＋授業態度＋出席状況）をそのまま後期の評価とする。 後期だけの履修なので、後期評価が学年評点となる。						
学 生 へ の メ ャ ッ ジ	<p>エステティックに関する基礎知識と働くうえで基礎的な心遣いなどを学びます。</p> <p>皮膚は「心の鏡」といわれ、心身の影響を受けやすいのでエステの授業を通して自分の身体・心の在り方をポジティブにとらえて、心身共に健康であるよう努力しましょう。</p> <p>他の課目とリンクする部分がありますのでしっかりと学んで生かしてください。</p> <p>授業では教科書の大切なところにアンダーラインを引かせますので蛍光ペン（黄・ピンク）を用意してください。</p> <p>本に目を通し復習をしっかりと行ってください。</p>						

2024年度 授業概要 (シラバス)

大宮理容美容専門学校

課 目 名	サロンワーク スキル (一)	課 目 区 分	選択専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	古堅 (宗)
単 位 数 (時間数)	1単位 (30時間)	履 修 時 期	1年次 後期	授 業 方 法	講義	備 考	2年次でも30時間 履修
学 習 目 標	「ビジネスマナー」、「運営管理」等で学んだことを基礎として、理容所における接客やスタッフとの連携作業等の実際のサロンワークについて学び、実習等を通して基礎的な技術・接客を学ぶこと。						
使用する テキスト	美容師のための接客・接客マナー ビジネスマナー 毛髪に関する資料		運営管理 その他		理容理論		
年 間 の 授 業 計 画	授業計画 (合計30時間) 1. サービススタッフの資質 2. 専門知識 3. 一般知識 4. 対人技能 (事例研究等) 5. 技術 (パーマ・カット・その他)						
試 験 の 実 施 方 法	試験は行わないが提出物の状況、出席状況や授業態度等で評価を行う。						
成 績 評 価 方 法	10%は提出物の状況の評点とする。 90%は出席状況や授業態度の評点とする。						
学 生 へ の メ ャ ッ ジ	本講義では学生時代とは違う社会人としてサロンで働くのに必要な基本的なことを学んでいただきます。 お客様に支持されるスタイリストになるために、ロールプレイング等を通じてサロンに立つ心構えや必要なことを実践していきますので積極的に取り組んでください。 何よりも言われたことを素直に実行、行動し続けることが大切ですので頑張りましょう。 モデルになることでお客様のきもちを知ることができますので、お互いに真剣に楽しく取り組みましょう。						

2024年度 授業概要 (シラバス)

大宮理容美容専門学校

課目名	関係法規・制度 (二)	課目区分	必修専門教育課目	対象学科	理容科	担当教員	藤森 (康)
単位数 (時間数)	0.5 単位 (15 時間)	履修時期	2 年次 前期	授業方法	講義	備考	1 年次で 15 時間履修
学習目標	<p>理容師の業務に関係する衛生法規・制度及び消費者保護法規・制度について、正しい知識を習得しておかなければならない必要性を理解し、あわせて、公衆衛生を担う理容師の社会的責務、職業倫理について、自覚すること。</p> <p>理容の業務に関する規定内容を正確に理解するとともに、衛生法規が、理容業を行う場合の指針として有する意義を把握すること。</p>						
使用するテキスト	『関係法規・制度』(公益社団法人日本理容美容教育センター) 『理容師法令集』(公益社団法人日本理容美容教育センター)						
年間の授業計画	1. 関係法規・制度 (一) の学習の確認 (11 時間) ・ 法制度の概要 ・ 衛生行政の概要 ・ 理容師法 2. 関連法規 (3 時間) ・ 生活衛生関係営業の運営の適正化及び進行に関する法律 ・ 株式会社日本政策金融公庫法 ・ 労働基準法 ・ 労働安全衛生法 ・ 地域保健法 ・ 消費者基本法 3. 総合学習 (1 時間) ・ 期末考査の解説						
試験の実施方法	期末考査を実施。 出題方法は○×問題と四択問題。						
成績評価方法	90%は期末考査の評点 5%は小テストの評点 (授業では単元ごとに小テストを実施します) 5%は出席状況や授業態度						
学生へのメッセージ	本講義では「理容師法」中心とした理容業に関わる各種の法制度を学習していきます。 関係法規・制度 (一) においてインプット形式で学習した内容を、アウトプット形式で学習し理解を深めていくことに加え、「理容師法」に限定されない、理容業に関連する法規を幅広く学習していきます。 授業では教科書とノートに加え配布プリントを必ず持参しましょう。筆記具としてはマーカーペンを用意しておくことより学習がスムーズです。						

2024年度 授業概要 (シラバス)

大宮理容美容専門学校

課 目 名	衛生管理 (二)	課 目 区 分	必修専門教 育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	森山
単 位 数 (時間数)	2単位 (60時間)	履 修 時 期	2年次 通年	授 業 方 法	講義	備 考	1年次で30時間 履修
学 習 目 標	<p>公衆衛生の意義と本質とを理解し、理容師が公衆衛生の維持と増進とについて重大な責務を担わなければならない理由は何かを十分に理解すること。特に生活衛生の意義と目的について、理容師の業務と関連付けながら具体的に理解すること。</p> <p>理容師の業務内容と感染症予防、環境衛生の保持との具体的な関連付けを重視し、理容における衛生措置の重要性について理解すること。特に、理容器具などの消毒法は、理容業務の衛生性を担保する上で最も重要な技術であり、その意義と原理について十分に理解するとともに、その適正な実施方法を身に付けること。</p>						
使用する テキスト	『衛生管理』(公益社団法人日本理容美容教育センター)						
年 間 の 授 業 計 画	<p>3編 感染症</p> <p>1章 感染症の総論 (15時間)</p> <p>2章 感染症の各論 (15時間)</p> <p>4編 衛生管理技術 (20時間)</p> <p>1章 消毒法総論</p> <p>2章 消毒法各論</p> <p>3章 消毒法実習</p> <p>5編 衛生管理の実践例 (5時間)</p> <p>1章 理容所における衛生管理要領</p> <p>2章 理容所の自主管理点検表</p> <p>総まとめ (5時間)</p>						
試 験 の 実 施 方 法	<p>前期、後期定期考査内で45分間の試験を実施する。</p> <p>考査の結果、60点未満の者は再試験を行う。</p> <p>出題方法は、穴埋め問題と三択問題あるいは四択問題。</p>						
成 績 評 価 方 法	<p>定期考査の点数をそのまま前期、後期の成績評価とする。</p> <p>但し、前期の成績にノート提出点を0~5点含む場合がある。</p>						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症、消毒法についての知識をしっかりと覚えるため、国内外の感染症に関するニュースには耳を傾け、予防や消毒を実践できるようにしてほしい。 2. 理解しやすいように工夫を重ね板書しているので、ノートを取ってほしい。 3. テスト前には、集中して勉強すること。 4. 筆記用具として、マーカーペン(黄色)を用意しておくことと学習がスムーズです。 5. 授業では教科書とノートに加え配布プリントを必ず持参しましょう。 						

2024年度 授業概要 (シラバス)

大宮理容美容専門学校

課 目 名	保健 (二)	課 目 区 分	必修専門教 育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	木村																																											
単 位 数 (時間数)	2単位 (60時間)	履 修 時 期	2年次 通年	授 業 方 法	講義	備 考	1年次で30時間 履修																																											
学 習 目 標	<p>理容技術の基礎となる人体について、特に皮膚及び毛髪などの皮膚付属器官の構造と機能に関する科学的、系統的な知識を習得すること。</p> <p>理容の業務を安全かつ効果的に行うためには、皮膚、毛髪などに関する正確な科学的知識が不可欠であることを理解すること。</p>																																																	
使用する テキスト	「保健」(公益社団法人日本理容美容教育センター)																																																	
年 間 の 授 業 計 画	<p>前期 30時間 範囲 第1編</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>編</th> <th>章</th> <th>内容</th> <th>時間数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">第1編</td> <td>第1章</td> <td>頭部、顔部、頸部の体表解剖学</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>第2章</td> <td>骨格器系</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>第3章</td> <td>筋系</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>第4章</td> <td>神経系</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>第5章</td> <td>感覚器系</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>第6章</td> <td>血液と免疫系</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>第7章</td> <td>循環器系</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>第8章</td> <td>呼吸器系</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>第9章</td> <td>消化器系</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>全て</td> <td>復習や小テストなど</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table> <p>後期 30時間 範囲 第1編・第2編</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>編</th> <th>章</th> <th>内容</th> <th>時間数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1編・第2編</td> <td>全て</td> <td>復習、小テスト、国家試験対策など</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>							編	章	内容	時間数	第1編	第1章	頭部、顔部、頸部の体表解剖学	2	第2章	骨格器系	3	第3章	筋系	3	第4章	神経系	3	第5章	感覚器系	3	第6章	血液と免疫系	3	第7章	循環器系	3	第8章	呼吸器系	3	第9章	消化器系	2	全て	復習や小テストなど	5	編	章	内容	時間数	第1編・第2編	全て	復習、小テスト、国家試験対策など	30
編	章	内容	時間数																																															
第1編	第1章	頭部、顔部、頸部の体表解剖学	2																																															
	第2章	骨格器系	3																																															
	第3章	筋系	3																																															
	第4章	神経系	3																																															
	第5章	感覚器系	3																																															
	第6章	血液と免疫系	3																																															
	第7章	循環器系	3																																															
	第8章	呼吸器系	3																																															
	第9章	消化器系	2																																															
	全て	復習や小テストなど	5																																															
編	章	内容	時間数																																															
第1編・第2編	全て	復習、小テスト、国家試験対策など	30																																															
試 験 の 実 施 方 法	<p>前期末考査及び後期末考査を実施</p> <p>前期の出題範囲は第1編 後期の出題範囲は第1編・第2編</p>																																																	
成 績 評 価 方 法	<p>90%は期末考査 10%は授業態度・出席状況</p>																																																	
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	<p>授業では、今後の試験対策として、記憶して欲しい部分は板書をしていきますので、ノートは必ず持参してください。また、ノートを見やすくするために、色ペンやマーカーペンがあるといいでしょう。</p>																																																	

2024年度 授業概要（シラバス）

大宮理容美容専門学校

課 目 名	化粧品化学（二）	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	木村																		
単 位 数 （時間数）	1単位(30時間)	履 修 時 期	2年次 後期	授 業 方 法	講義	備 考	1年次で30時間履修																		
学 習 目 標	<p>化粧品は、理容技術を行う上で欠くことのできないものである反面、その使用方法を誤れば重大な健康被害を起こすおそれがあるものであることから、その化学的な性質を理解するとともに、これを正しく使用するためには正確な知識と適正な技術とを身に付けることが重要であることを認識すること。</p> <p>また理容の業務を安全かつ効果的に行うために、化粧品の正確な科学的知識と合理的な取扱方法に習熟し、あわせて、化粧品による危害を防止するための使用上の注意を学ぶこと。</p>																								
使用する テキスト	「化粧品化学」（公益社団法人日本理容美容教育センター）																								
年 間 の 授 業 計 画	<p>範囲：第1編・第2編 後期：30時間</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">編</th> <th style="width: 10%;">章</th> <th style="width: 55%;">内容</th> <th style="width: 20%;">時間数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center;">第2編</td> <td style="text-align: center;">第1章</td> <td style="text-align: center;">スキンケア製品</td> <td style="text-align: center;">6</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">第2章</td> <td style="text-align: center;">メイクアップ製品</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">第3章</td> <td style="text-align: center;">ヘアケア、ヘアメイクアップ及びス キアルプケア製品</td> <td style="text-align: center;">10</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">第1編・第2編</td> <td style="text-align: center;">全て</td> <td style="text-align: center;">復習、小テスト、国家試験対策など</td> <td style="text-align: center;">10</td> </tr> </tbody> </table>							編	章	内容	時間数	第2編	第1章	スキンケア製品	6	第2章	メイクアップ製品	4	第3章	ヘアケア、ヘアメイクアップ及びス キアルプケア製品	10	第1編・第2編	全て	復習、小テスト、国家試験対策など	10
編	章	内容	時間数																						
第2編	第1章	スキンケア製品	6																						
	第2章	メイクアップ製品	4																						
	第3章	ヘアケア、ヘアメイクアップ及びス キアルプケア製品	10																						
第1編・第2編	全て	復習、小テスト、国家試験対策など	10																						
試 験 の 実 施 方 法	<p>後期末考査を実施 出題範囲は第1編・第2編</p>																								
成 績 評 価 方 法	<p>90%は期末考査 10%は授業態度・出席状況</p>																								
学 生 へ の メ ャ ッ ー ジ	<p>授業では、今後の試験対策として、記憶して欲しい部分は板書をしていきますので、ノートは必ず持参してください。また、ノートを見やすくするために、色ペンやマーカーペンがあるといいでしょう。</p>																								

2024年度 授業概要 (シラバス)

大宮理容美容専門学校

課 目 名	文化論 (二)	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	古堅 (宗)
単 位 数 (時間数)	1単位 (30時間)	履 修 時 期	2年次 前期	授 業 方 法	講義	備 考	1年次で30時間履修
学 習 目 標	<p>理容業の使命の一つが、より優れた人間美の創造、実現にあることをよく認識し、この使命の達成のために必要な美的感覚を身に付け、これを洗練し、芸術的な表現力と鑑賞力を養うこと。</p> <p>理容の業務を全うするため、美の成り立ちやあり方を知り理解を深め、確かな技術力を身に付けるとともに、豊かな感性に裏打ちされた優れた表現力を養うことが必要であることを学ぶこと。</p>						
使用する テキスト	『文化論』(公益社団法人 日本理容美容教育センター)						
年 間 の 授 業 計 画	<p>年間の授業計画</p> <p>第3章 ファッション文化史 日本編 (24時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 縄文・弥生・古墳 2 古代 (飛鳥・奈良・平安時代) 3 中世 (平安末・鎌倉・室町・戦国時代) 4 近世Ⅰ (戦国末・安土桃山時代) 5 近世Ⅱ (江戸時代) 6 近代 (明治・大正・昭和20年代まで) 7 現代Ⅰ (1945年～1950年代) 8 現代Ⅱ (1960年代～1970年代) 9 現代Ⅲ (1980年代～1990年代) 10 現代Ⅳ (2000年代以) <p>礼装の種類 (和装の礼装・洋装の礼装)</p> <p>総合学習 (6時間)</p>						
試 験 の 実 施 方 法	前期・後期期末考査を実施						
成 績 評 価 方 法	期末考査の評点						
学 生 へ の メ ャ ッ ー ジ	<p>日本の「理容」「美容」の歴史を現代まで学びます。各年代のファッションを髪型、化粧、服装などに分けて特徴をとらえ、時代背景と、その生活環境(庶民、上流社会)などによるファッションの流行を探ります。</p> <p>理容師・美容師に求められる礼装の知識を、和装・礼装に分けて学びます。</p> <p>1年次で学んだこともしっかりと復習し、国家試験合格に向けて頑張りましょう。</p>						

2024年度 授業計画 (シラバス)

大宮理容美容専門学校

課 目 名	理容技術理論 (二)	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	古堅 (朱)
単 位 数 (時間数)	2単位 (60時間)	履 修 時 期	2年次 通年	授 業 方 法	講義	備 考	1年次で90時間履修
学 習 目 標	<p>理容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣とを養い、工夫と創造の能力とを身に付けること。</p> <p>理容の業務を安全かつ効果的に行うため、理容器具の正確な科学的知識と合理的思考に裏付けされた正しい取扱いの方法と理容の基礎的技術とを作業の実際に即して学び、これに習熟すること。あわせて、理容器具による危害を防止するための使用上の注意を学ぶこと。</p> <p>優れた理容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、科学的合理的な方法によって把握されなければならないことを十分に理解すること。</p>						
使用する テキスト	<p>「理容技術理論1」(公益社団法人日本理容美容教育センター)</p> <p>「理容技術理論2」(公益社団法人日本理容美容教育センター)</p>						
年 間 の 授 業 計 画	<p>第1章 理容技術の基礎 前期 (30時間)</p> <p>第2章 理容用具</p> <p>第3章 ヘアデザイン</p> <p>第4章 ヘアカット</p> <p>第5章 ヘアセット</p> <p>第6章 パーマネントセット</p> <p>第7章 ヘアカラーリング</p> <p>第8章 シェービング</p> <p>第9章 理容エステティック</p> <p>第10章 理容クリニック</p> <p>第11章 シャンプーイング&リンシング</p> <p>第12章 理容マッサージ</p> <p>第13章 ヘアトリートメント</p> <p>第14章 スカルプトリートメント 1年次の復習</p> <p>ワークブックを使用し問題を解く 後期 (30時間)</p>						
試 験 の 実 施 方 法	前期、後期定期考査内で筆記試験(45分間)を実施。						
成 績 評 価 方 法	期末考査の成績						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	授業では、今後の試験対策として、記憶して欲しい部分は板書をしていきますので、ノートは必ず持参してください。また、ノートを見やすくするために、色ペンやマーカーペンがあるといいでしょう。						

2024年度 授業概要（シラバス）

大宮理容美容専門学校

課目名	運営管理（二）	課目区分	必修専門教育課目	対象学科	理容科	担当教員	古堅（宗）
単位数（時間数）	0.5単位 （15時間）	履修時期	2年次 前期	授業方法	講義	備考	1年次で15時間履修
学習目標	<p>経営管理及び労務管理の基本的事項を知り、経営者の考え方や経営者が果たす責任・役割を学ぶこと。</p> <p>理容業の経営では、人が大きな役割を果たす。従業員として働いていくうえで求められることについて理解し学んだことを実践すること。</p> <p>理容業において、適切な接客態度がいかに重要であるかを自覚するとともに、消費者対応の基本を学び、実践する能力を身に付けること。</p>						
使用するテキスト	『運営管理』（公益社団法人 日本理容美容教育センター）						
年間の授業計画	<p>年間の授業計画</p> <p>第1編 経営者の視点 （4時間）</p> <p>第1章 経営とは・経営者とは</p> <p>第2章 理容業・美容業の経営について</p> <p>第3章 資金の管理</p> <p>第2編 人と言う資源 従業員としての視点 （6時間）</p> <p>第1章 人という資源</p> <p>第2章 健康・安全な職場環境の実現</p> <p>第3章 従業員としての視点から（1年次の復習）</p> <p>総合学習 （5時間）</p>						
試験の実施方法	後期期末考査内で筆記試験（45分間）を実施 穴埋め問題、4択問題、○×問題等						
成績評価方法	期末考査の評点						
学生へのメッセージ	<p>顧客が喜んでくれるサービスはどのように創られ、提供されるのか。その背景にある考え方を理解し、よいサービスの実現に貢献するための知識や方法を学んでいきましょう。</p> <p>1年次で学んだことを復習しましょう。</p> <p>授業では教科書とノートを必ず持参しましょう。筆記用具としては蛍光ペン（黄・ピンク）を用意しておくことで学習がスムーズです。</p>						

2024年度 授業概要 (シラバス)

大宮理容美容専門学校

課 目 名	理容実習 (二)	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	古堅(朱)
単 位 数 (時間数)	14単位 (420時間)	履 修 時 期	2年次 通年	授 業 方 法	実習	備 考	1年次で480時間 履修
「実務経験のある教員による授業」に該当する課目							
理容師として理容室に勤務していた教員が、実際に理容室で行われているカット、シェービング等の技術を取り入れた授業を行う。							
学 習 目 標	<p>理容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けるとともに、これらの基本的操作を適宜組み合わせることで完成させる技術を習得すること。</p> <p>理容所における衛生管理の重要性を認識し、器具の消毒などの適切な実施方法を身に付けること。</p> <p>個々の客の要望に応じた理容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身に付けること。</p>						
使用する テキスト	「理容実習1」「理容実習2」(公益社団法人日本理容美容教育センター)						
年 間 の 授 業 計 画	<p>前期 (240時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カット、シェービング道具の並べ方 ・ミディアムカットカット工程 ・ネックシェービング工程 ・フェイスシェービング工程 ・顔面処置の工程 ・整髪工程 ・ブローカット ・レディースカット ・パーマメントウエーブ ・アイロンパーマ <p>前期 (10時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創作ネイル <p>後期 (180時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験 (実技試験) 練習 						
試 験 の 実 施 方 法	衛生・実技試験を年間で3回程度行う。不合格の場合は再試験を行う。						
成 績 評 価 方 法	80%は衛生・実技試験の評点 20%は授業態度・出席状況						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	忘れ物がないように準備してください。実技は、繰り返し練習しましょう。						

2024年度 授業概要 (シラバス)

大宮理容美容専門学校

課 目 名	エステティック 技術 (二)	課 目 区 分	選択専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	古堅 (宗)
単 位 数 (時間数)	1単位 (30時間)	履 修 時 期	2年次 前期	授 業 方 法	講義	備 考	1年次で30時間履修
学 習 目 標	<p>エステティック技術の目的が心身の健康と美の実現にあることを理解し、科学的事実と合理的思考に裏付けられたエステティック技術の重要性を認識すること。</p> <p>エステティック技術の歴史、理論、現状のほか、各種のエステティック技術の目的、種類、特徴、技術上の注意などについて学ぶこと。特に、エステティック技術の効果と安全性に関する科学的基礎について十分に認識すること。</p> <p>フェイシャルエステティックについて、その理論と実際の技術を学ぶこと。</p>						
使用する テキスト	認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディーエステティシャン『理論と技術』 (一般社団法人 日本エステティック協会)						
年 間 の 授 業 計 画	<p>年間の授業計画 (前期 30時間)</p> <p>Chapter 1 から Chapter 7 までの復習</p> <p>Chapter 8 化粧品の種類と働き</p> <p>Chapter 9 栄養の知識</p> <p>Chapter10 エステティックにおける衛生と消毒</p> <p>Chapter11 エステティックの基礎知識</p> <p>Chapter13 フェイシャルエステティックの基礎知識</p> <p>総まとめ</p>						
試 験 の 実 施 方 法	<p>Chapter ごとに小テストを実地する。</p> <p>小テストの正答について、本を使用し各自で調べさせたものを提出させフィードバックする。</p> <p>総合テストを。</p>						
成 績 評 価 方 法	<p>座学 (小テスト状況+授業態度+出席状況) を評価する。</p> <p>前期のみの履修なので、検定試験を受けた結果と座学を加味して学年評点となる。</p> <p>何らかの理由で検定試験を受験できない場合は課題を与え、それをクリアした場合評点とする。</p>						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	<p>エステティックに関する基礎知識と働くうえで基礎的な心遣いなどを学びます。</p> <p>皮膚は「心の鏡」といわれ、心身の影響を受けやすいのでエステの授業を通して自分の身体・心の在り方をポジティブにとらえて、心身共に健康であるよう努力しましょう。</p> <p>他の課目とリンクする部分がありますのでしっかりと学んで生かしてください。</p> <p>授業では教科書の大切なところにアンダーラインを引かせますので蛍光ペン (黄・ピンク) を用意してください。</p> <p>本に目を通し復習をしっかりと行ってください。</p>						

2024年度 授業概要 (シラバス)

大宮理容美容専門学校

課 目 名	サロンワーク スキル (二)	課 目 区 分	選択専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	黒岩
単 位 数 (時間数)	1単位 (30時間)	履 修 時 期	2年次 通年	授 業 方 法	講義	備 考	1年次で30時間履 修
学 習 目 標	美容師のための接客・接客マナー ビジネスマナー 運営管理 毛髪に関する資料 理容理論						
使用する テキスト	授業計画 (合計30時間) 1. サービススタッフの資質 2. 専門知識 3. 一般知識 4. 対人技能 (事例研究) 5. その他 (パーマ・カット・その他)						
年 間 の 授 業 計 画	試験は行わないが提出物の状況、出席状況や授業態度等で評価を行う。						
試 験 の 実 施 方 法	10%は提出物の状況の評点とする。 90%は出席状況や授業態度の評点とする。						
成 績 評 価 方 法	「ビジネスマナー」、「運営管理」等で学んだ知識を復習しながらサロンにおける作業について学びます。 お客様に支持されるスタイリストになるために、ロールプレイング等を通じてサロンに立つ心構えや必要なことを実践していきますので積極的に取り組んでください。 何よりも言われたことを素直に実行、行動し続けることが大切ですので頑張りましょう。 モデルになることでお客様の気持ちを知ることができますので、お互いに真剣に楽しく取り組みましょう。 お互いのよい所を認め、互いの成長のために協力しましょう。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	サロンにおいては、接客と技術、どちらも大切です。特に接客においてはその人の人間味が表れますので謙虚な気持ちで学びましょう。 技術面では、ウィッグを使う部分と相モデルを行います。ウィッグでは学べないことを相モデルで学びますのでお互いに気づいたことはしっかりと伝えるようにしてください。						

2024年度 授業概要 (シラバス)

大宮理容美容専門学校

課 目 名	理容総合理論	課 目 区 分	選択専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	宗安
単 位 数 (時間数)	2単位 (60時間)	履 修 時 期	2年次 後期	授 業 方 法	講義	備 考	
学 習 目 標	理容師が理容技術の専門家であるとともに、地域の保健衛生の担い手でもあることを自覚し、これまで必修課目で学習を進めてきた各教科について、その関わり合いを認識し、横断的な学習を行うことで、各教科科目についてのより深い理解を進める。						
使用する テキスト	『関係法規・制度』『運営管理』『衛生管理』『保健』『化粧品化学』『理容技術理論Ⅰ』『理容技術理論Ⅱ』『文化論』『ワークブック』(公益社団法人日本理容美容教育センター)						
年 間 の 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科課目の関連性 (6時間) 各教科の内容について横断的な理解を深める 2. 学習内容の確認 (6時間) これまでの学習についての理解の確認を行う 3. 総合演習 (42時間) 演習問題による総合的な学習を行う 4. 模擬試験 (6時間) 成績評価に必要な試験を実施する 						
試 験 の 実 施 方 法	授業時間内に2回模擬試験を実施する。 2回の試験の集計結果が60点に満たない学生には課題を与え、課題をクリアした者は60点として扱う。						
成 績 評 価 方 法	上記試験の結果をもって成績評価とする。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	これまでの学習の振り返りを行いながら、その関連性について理解を深めていきます。 例えば、「関係法規・制度」で学習した法律が「運営管理」でどう活きるのか、「化粧品化学」で学習した薬剤が「技術理論」でどう使われるのかなどを学習するという事です。 学習の多くは演習問題形式で進めていきますが、問題は解くことに意味があるわけではありません。理解の確認をしたうえで、理解の不足している点についてさらに学習を進めていくことが大切です。						

2024年度 授業概要 (シラバス)

大宮理容美容専門学校

課目名	理容総合技術	課目区分	実習	対象学科	理容科	担当教員	古堅 (朱)
単位数 (時間数)	6単位 (180時間)	履修時期	2年次 通年	授業方法	実習	備考	
「実務経験のある教員による授業」に該当する課目							
理容師として理容室に勤務していた教員が、実際に理容室で行われているカット、パーマントウエーブ、シェービング等の技術を取り入れた授業を行う。							
学習目標	<p>必修課目において習得した基本的技術を基に、さらに発展させた高度な技術を身に付けるとともに、理容デザインの最新の国際的動向について学ぶこと。</p> <p>常に新しい技術の吸収を怠らず、また、自らも新しい技術の開発に努める姿勢を習慣付け、専門技術者としての心構えを身に付けること。</p>						
使用するテキスト	「理容実習1」「理容実習2」(公益社団法人日本理容美容教育センター)						
年間の授業計画	<p>前期 (90時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バックシャンプー (12時間) ・ドライヤーセット ・ヘアショーの技術 ・レディースカット <p>後期 (90時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーマントウエーブ、カット (チオグリコール酸、システインとの比較) ・レディースシェービング ・アイロンパーマ ・カット～整髪 (国試工程) 						
試験の実施方法	ヘアショーの取り組み方、仕上がり 各技術の出来具合						
成績評価方法	80%は衛生・実技内容 20%は授業態度、取り組み方、出席状況						
学生へのメッセージ	・繰り返し練習し、身につけましょう						